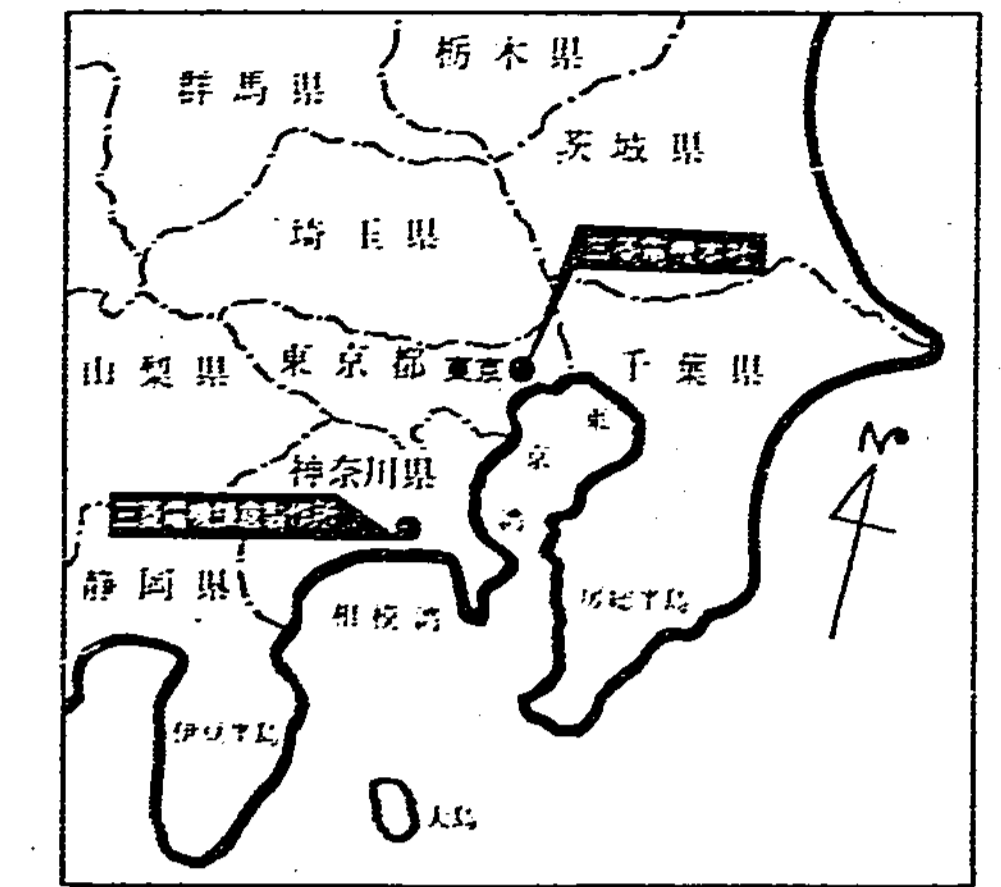




発行所 十勝毎日新聞社 〒080 帯広市東1条南8丁目 電話=編集 22121、広告 2323、総務・販売 2222 ©十勝毎日新聞社 1987



宇宙開発最前線

三菱電機

三菱電機 大正十年三菱造船電気製作所を母体設立。重電機器、家庭電器、情報通信システム、電子デバイス、産業、自動車機器を生産する総合電機メーカーのトップ。技術がくまなく高度な「SOCIETY」を追求している。進歩的な経営者、片山八郎社長、志賀和名専会長、片山八郎会長、志賀専社長。資本金千七百七十億五千八百五十一万円。売上高一兆八千二百九十億六千九百七十八万円。従業員数四万九千七百七十八人。

東京から電車で約一時間。民家の屋根をくぐり、大船から若者、サーファーに走るモノレールから遠く、湘南モノレールに乗り換え、湘南町で下車。すくすくの左

が鎌倉市上町屋の三菱電機株式会社鎌倉製作所だ。同製作所は昭和三十七年、開業。三十二号に宇宙機器部門を含む鎌倉製作所、計算機製作所、コンピュータシステム製作所の三工場がある。社員千八百人、周辺には関連の十五社が張り付き、東京から出張して来るエンジニア関係者などを含めて合わせると、一日七千人が同製作所を出入りする。十勝のひとりの町、村人口に匹敵する。所内を歩くと、庭園のように整備された緑が目につく。「古樹、緑舎に合わせて緑化には歴代所長が気を使っている。美しい環境からいい製品が生まれるという社の方針にも合っています。近藤三郎本

社長が説明してくれました。幅広い技術を一を結晶させ、日本の宇宙開発は宇宙研究事業団と文部省宇宙科学研究

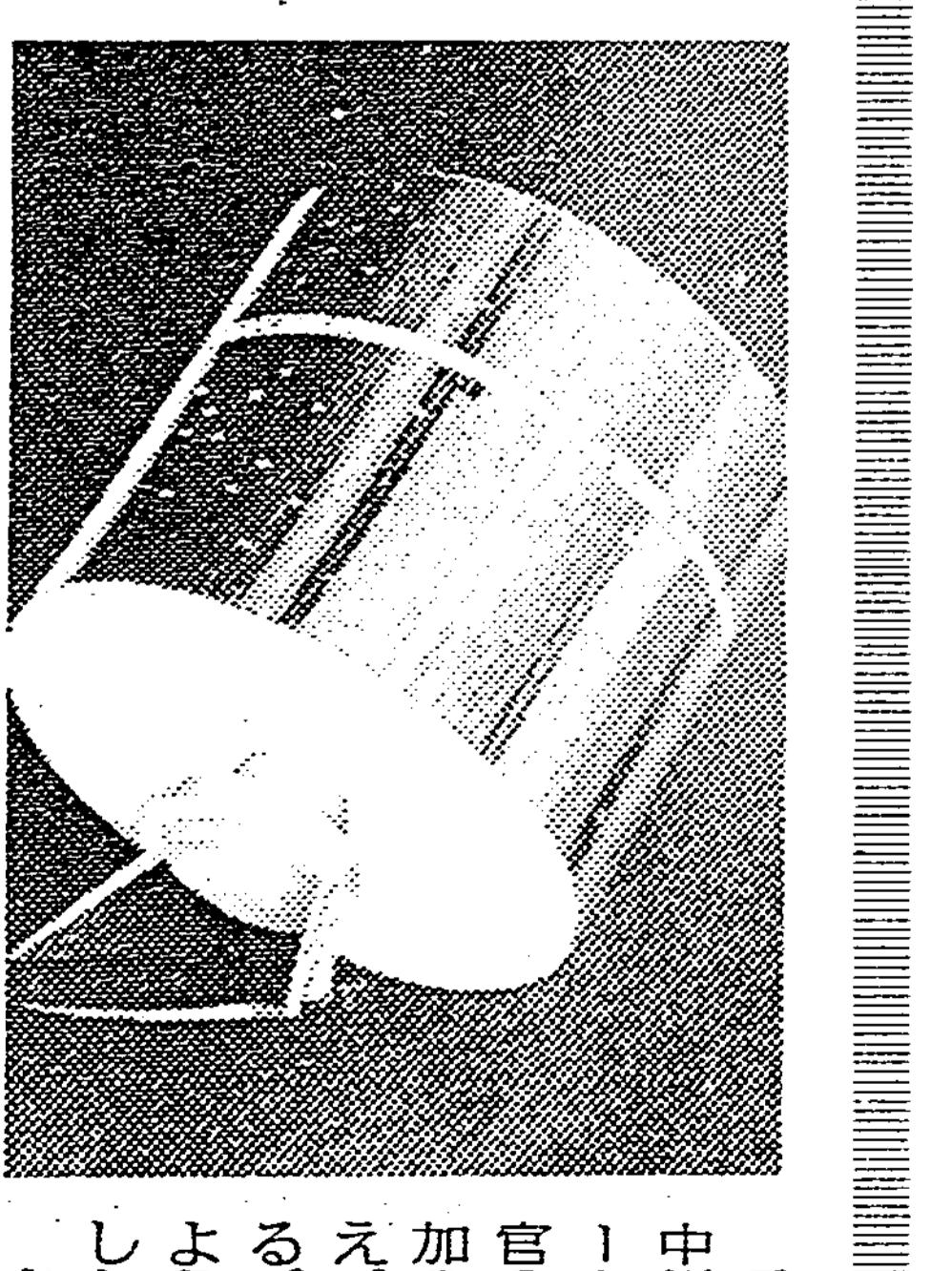
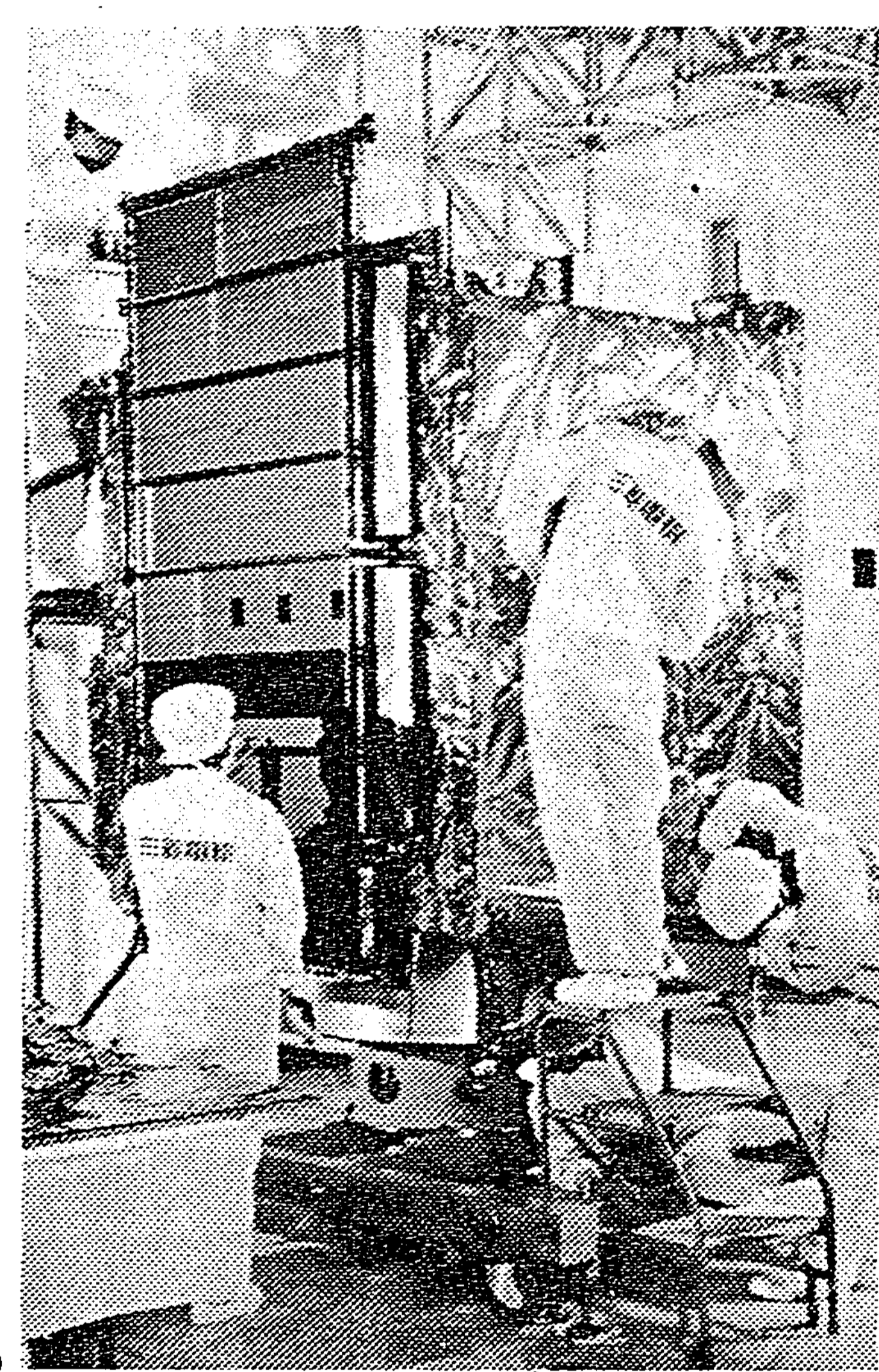
東洋一の衛星工場

自主技術、一貫して追究

所の二つの流れがある。衛星のことを一貫して追いつけ、その後CS(宇宙衛星)、EC(強いカーボン材、衛星本体、では宇宙研の方が日本電気の「てきた」と今までの歩みを振り返った。事業団の方は、衛星十七個のうち九個が三菱電機が主契約者だ。木下規郎(三菱電機)は「三菱電機は世界最大の衛星メーカー、米TRW社と四十一年の提携、二年后に国際通信衛星ロケット開発では三菱工業が日本をリードしている。三菱電機はエレクトロニクスから機械まで幅広い技術を持つ。制御機器を担当。三菱グループは衛星、ロケットの両面で日本の宇宙開発を引っ張っているのだ。木下部長の案内で宇宙機器展示室を見ている。軽くて

今年八月に打ち上げ予定のETSⅤ(技術試験衛星V型)は、上六十三年二月打ち上げ予定のCS3a通信衛星3号。この機が製作の最終段階を迎え、工場内は緊迫したムード。筑波宇宙センターでテストを受けた後、十月に種子島宇宙センターに送られ、来年二月打ち上げる「これが宇宙へ行くのか」と思うと不思議な感動を覚える。「宇宙機器の生産高は鎌倉製作所全体の二〇〇％だ。社員の配属希望はトップクラス。やはりロマンがあるからでしょう(木下部長)。エンジニアにとって宇宙の魅力は当然我々が感じる以上のものだ。木下部長は北海道、十勝の航空宇宙産業基地構想について話している。片山八郎社長が訪米した際、ジェームス・ベックスNASA長官の呼び掛けに「いい話だねえ。まさか子供に夢が与えられる。わが国も積極的に対応しようじゃないか」と決意を示したと紹介。

中川長官が訪米した際、ジェームス・ベックスNASA長官の呼び掛けに「いい話だねえ。まさか子供に夢が与えられる。わが国も積極的に対応しようじゃないか」と決意を示したと紹介。機社長(現会長)が有人宇宙基地計画参加と宇宙産業育成の陳情をした場面が描かれ、中川長官の反応の良さに片山社長が感激したと描かれている。見出しでも「積極的だった中川一郎」と高く評価している。



今年八月に打ち上げ予定のETSⅤ(技術試験衛星V型)は、上六十三年二月打ち上げ予定のCS3a通信衛星3号。この機が製作の最終段階を迎え、工場内は緊迫したムード。



木下宇由機器部長

年間キキョ 目指せ宇宙基地・第一部

木下部長は北海道、十勝の航空宇宙産業基地構想について話している。片山八郎社長が訪米した際、ジェームス・ベックスNASA長官の呼び掛けに「いい話だねえ。まさか子供に夢が与えられる。わが国も積極的に対応しようじゃないか」と決意を示したと紹介。機社長(現会長)が有人宇宙基地計画参加と宇宙産業育成の陳情をした場面が描かれ、中川長官の反応の良さに片山社長が感激したと描かれている。見出しでも「積極的だった中川一郎」と高く評価している。

一九九二年のコンゴ新大陸発見五百年を目標として宇宙基地計画が現在進められているが、その日本の参加を決意したのが中川長官だった。近藤社長は「三菱の重役の中には中川一郎氏を尊敬している人は随分いるんですよ」と教えてくれた。「中川大臣の話をお聞かせください。大樹の宇宙基地構想の原動力は、中川長官にあったのだ。意外な所で郷土の英雄の足跡を見たい。すくすく(小野寺 裕記者 100)